



誇り高き伝統文化 茶道に学ぶ

～一期一会の精神と心得～

校長 島野 歩

今年も早いもので、あと1ヶ月となりました。師走を迎えます。校庭の真っ赤なもみじも、少しずつ落葉を始めました。木々たちも冬支度です。先日、職員室に戻ると私の机の上に可愛いお手紙が置いてありました。「家から学校の行きに、この葉っぱを見つけました。先生にあげます。前あげたのと色が違うので、よく見てください。」なんて素敵なメッセージ。なんて素敵な気づき。2年生の女の子です。子どもたちの豊かな感性がいろいろな場面で光っています。

さて過日11月29日、30日と中澤 宗寿先生をお迎えし、各学年・学級ごとに茶道教室を行いました。



中澤先生は、子どもたちを目の前にしておっしゃいます。

「1年生はお会いするのが初めてですが、他の学年の皆さんとは一年ぶりですね。お久しぶりです。お元気でしたか。一年経って、同じ顔ぶれでもこのお茶会は、もう二度と戻ってはきません。皆さんとまたこうしてお会いできて嬉しく思います。」

まさに「一期一会」です。茶道では、茶会によって用いられる花が違い、そこに集まる人に応じて使われる道具も異なります。そういう意味では、全く同じ茶会は二度と開かれない。そこに込められた「あなたと過ごしているこの時間は、一度きりの大切なものです。二度と戻ってこないからこそ、今のときを大切にしましょう。」という中澤先生の教えを受け取ることができます。

たとえ、毎日顔を合わせる間柄であっても誠心誠意を尽くしてお付き合いしていく、これは学校生活の中でも通じることです。日本人が大切にしてきた精神文化を、これからも本校の大切な行事「茶道教室」を通じ、子どもたちは学び続けていきます。

「茶道教室に学ぶ子どもたちの姿」

心が凜とします。

釜の湯のたつ音に耳を澄ましながら、きちんとした正座でお手前を待つ姿がとても立派です。



◆茶道教室(11月29日～11月30日)

1年生 小学校生活 はじめての茶道教室◆

～1年生の子どもたちの声・声・声～



○はじめに、中澤先生からお話をいただいて、じっさいに古川先生がお客さんでやってくれました。はっきりわかってぜんぜんドキドキしなくなりました。お着物すがたの中澤先生がキラキラ光っていて素敵に思いました。二年生、三年生、四年生、五年生、六年生と、あと五回やるときがあるので、楽しみにまっています。

○わたしは、ねりきりにお花をかいたよ。とてもすてきにできて、そしておいしくできていい気分になったよ。わたしは、はじめてまっちゃが好きになったよ。

○さどうきょうしつで、お茶のつくりかたや、いつできたのか、いっぱい知れてよかったです。おちゃのまぜるところが、はつたいけんでした。ぼくはスタッフの健太さんとやりました。ちょっとむずかしかったけど、楽しかったし、おいしかったです。中澤先生は、お茶をいれてさしあげるところまで、とてもいねいでした。

○おちゃたても楽しかったし、おまんじゅうもたのしくつくれました。そしてこんどのときの二年生もすごくたのしみです。中澤先生、ありがとうございます。

○お茶をたてて、おきゃくさまにあげました。そしたら、「お茶、おいしいね」と言ってくれたので、うれしかったです。おかしもおいしかったです。おかしの色は、いろいろからえられます。ぼくは、ピンク色をえらびました。

○お茶が、さいしょ、にがいと思ったけど、にがくありませんでした。中澤先生と太田先生が、見本を見せてくれました。おかしの色は、ピンクとみどりと、きいろです。わたしはピンクでおかしをつくりました。おうちでできるかわからないけれど、してみたいです。たのしかったです。

○わたしが、さいしょにやった行動は、中にあんこが入っているちょっと苦手なたべものでした。じぶんで作ってじぶんでたべるので、わたしはあんこをたべたことがなかったけれど、がんばってたべました。お茶は、おもちみtainなものといっしょにたべたのでちょっと濃いつて言う子もいたけど、わたしはおいしかったです。さいごに、いっぱいいっぱいお茶のことができて、よかったですと思います。

○おかしがピンクだったので、うさぎの顔を書きました。

ピンク色で、とてもにあったので、かわいくできました。

お茶をつくりました。ぐるぐるまわしてつくりました。

のんでみたら、にがかったけど、ぜんぶのめました。思ったより、おいしかったので、うれしかったです。



指導くださった中澤宗寿先生、スタッフの方、お母様方、

文教大学の学生の皆様、子どもたちに素敵な時間をありがとうございました。